



地区回覧・HP用

今回の学校だよりは、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を地域の皆様にお知らせします。

全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

1 調査の内容について

(1)実施日 令和7年4月17日(木)

(2)実施学年 第6学年

(3)調査内容

【教科に関する調査】

- ◆国語、算数、理科に関する問題
- ◆出題範囲は、5年生までの学習内容

【生活習慣・学習環境等に関する質問調査】

- ◆学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

2 本校の結果概要について

【国語の結果概要】

- ・「国語は得意」「国語は好き」など、国語に関する全ての質問項目で、全国平均より高い。
- ・平均正答率より高い10問以上正答している児童は、全国平均より多い。学力のばらつきを表す標準偏差は、全国標準偏差より小さく、正答数分布グラフを見ても、国語が苦手な児童は少ないといえる。
- ・無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、よく理解できている様子が見られる。

【今後の指導】

- ・本校の児童は、「国語の勉強は好き」「国語の勉強は得意」と答えている児童が多く、さらに「将来の役に立つ」と国語を学ぶことの有用感を感じている。このような思いを持ち続けられるような指導を心がけたい。
- ・漢字の問題の出題数は低いが、他の問題に比べ無解答率は高い。出されている問題は決して難しいものではないため、日頃から漢字の読み書きを意識的に行っていくことが必要である。
- ・国語科だけでなく、社会科や総合的な学習の時間など、単元や1時間の授業の中で、いくつかの資料を用いて考えたりまとめたりする教科において、資料から自分の考えの根拠や理由を示しながら考えを述べる時間を設定していきたい。

【算数の結果概要】

- ・算数に関するほとんどの質問項目で、4段階で最も肯定的な「そう思う」と答えた児童の割合が全校平均より低い。しかし、「将来役に立つ」という質問では全国平均よ

り高い。また、「内容はよく分かる」「工夫して計算している」は全国平均とほぼ同等であることから、将来に対する必要感から学力の向上につながっていると考えられる。

- ・平均正答率は全国平均より高く、7割の児童が全国平均正答数を超える11問以上の正答率である。標準偏差は、全国に比べ学力のばらつきは小さく、正答数分布グラフからもよく理解していることが分かる。
- ・無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、よく理解できている様子が見られる。

【今後の指導】

- ・算数では、どうしても先に答えばかりを知りたい、どのようにしたらその答えを導き出せるのかというプロセスが疎かになってしまう傾向にある。一つの解を求めるだけに留まらず、出された数値を用いてさらに発展した問題に取り組んだり、どのようにして答えを導き出したのかを説明したりする活動を授業の中で充実させたい。
- ・全ての教科に関わることだが、問題文を読み解き、問われていることが何かを捉える機会を意図的に設定することで、そのような力を伸ばしていきたい。
- ・「知識・技能」に関する問題の正答率が高いことから、日頃の丁寧な指導が児童の力の向上につながっていると考えられる。今後も丁寧な指導を続けていきたい。今後は、そのような指導によって得た知識や技能を、児童自らが用いて考えたり表現したりする活動を仕組んでいくことが大切である。

【理科の結果概要】

- ・理科に関するほとんどの質問項目で、「そう思う」と答えた児童の割合が全国平均より低い。しかし、「将来役に立つ」「日常生活に活用できている」と答えた児童の割合は全国平均よりも高い。将来に必要な感や日常生活での活用という面から理解を深めていると考えられる。
- ・平均正答率は、全国平均より高い。標準偏差は、全国に比べ、ばらつきは小さく、正答数分布グラフを見ても理解できていることが分かる。

【今後の指導】

- ・全ての問題について高い正答率であることから、本校でのこれまでの丁寧な指導が児童の力の向上につながっていると考えられる。そのような中で、第3学年で扱う電気や磁石の性質に関する問題の正答率が低かったこ